

チケット TICKET 前売り開始 6/30 Sun. 2019

料金	各公演 2,000円	トーク、シンポジウム、ワークショップの見学は無料(要予約)
電話予約	シアター・オリンピックス チケットオフィス Tel.0763-68-2216	受付時間 9:00~18:00

FAX、E-mail、ウェブサイトからの受付は行っていません。お電話、または直接利賀の事務所にてお申し込みください。

※全公演、入場整理番号付きの自由席です。
※利賀芸術公園野外劇場、岩舞台、前沢ガーデン野外ステージでの上演は雨天の場合も実施しますが、豪雨が予測される場合は中止することもあります。公演中止の場合は、当日12時に決定します。電話、公式サイト、SNSなどでご確認ください。

チケット・公演に関するお問い合わせ ▶ 舞台芸術財団演劇人会議 Tel.0763-68-2356

チケット代金振込先

銀行振込
りそな銀行 目白出張所 普通預金 1137149
●フリガナ サイ)フタイゲイツツザイダンエンゲキジンカイギ
●口座名義 公益財団法人舞台芸術財団演劇人会議
郵便振替
00140-9-536136 舞台芸術財団演劇人会議

ご予約ののちにチケット代金を上記の口座にお振込みください。ご予約のない入金は無効となります。

アクセス ACCESS ・ 宿泊 ACCOMMODATION ・ 食事 FOODS

シアター・オリンピックスの公演にあわせて、近隣の駅と会場を結ぶバスを運行します。利賀村への公共交通機関はJR越中八尾駅、旧井波駅と利賀村を往復する1日に2便ずつの南砺市営バスのみです。

利賀へのアクセス
連絡バス(要予約) ■富山駅連絡バス 料金:500円(片道) ■高岡駅・新高岡駅連絡バス 料金:500円(片道)
 ※予約の受付は乗車の3日前まで ■五箇山合掌の里連絡バス 料金:300円(往路のみ。名古屋駅発きときとライナーから接続)

南砺市営バス(毎日運行、予約不要) 料金:200円(片道)

往路 越中八尾駅 → 利賀芸術公園
10:15 発 → 11:07 着 / 16:47 発 → 17:39 着*

復路 利賀芸術公園 → 越中八尾駅
7:18 発 → 8:12 着 / 14:51 発 → 15:45 着*

往路 旧井波駅 → 利賀芸術公園
10:15 発 → 11:07 着 / 16:47 発 → 17:39 着

復路 利賀芸術公園 → 旧井波駅
7:18 発 → 8:12 着 / 14:51 発 → 15:45 着

※9月1日、2日の午後はおわら風の盆の開催に伴い、越中八尾駅のバス停の場所が変わります(越中八尾駅から約3km)。9月1日は、富山駅発着の連絡バスのご利用をお勧めします。

黒部へのアクセス

シャトルバス(無料)

JR北陸新幹線 往復 黒部宇奈月温泉駅 ↔ 前沢ガーデン
 あいの風とやま鉄道 往復 黒部駅 ↔ 前沢ガーデン
 往復 黒部駅 ↔ JR黒部宇奈月温泉駅経由 ↔ 宇奈月国際会館「セレネ」

※黒部会場には駐車場がありません。お車で越しの場合には臨時駐車場をご利用ください。また、臨時駐車場からはシャトルバスがあります。

宿泊 利賀村内・五箇山の宿

レンタルテント	1泊	1,000円~/張(シアター・オリンピックス特設テントサイト)
公共の宿	1泊	4,200円/人(素泊まり・男女別相部屋又は個室2名以上)
民宿	1泊	7,000円~/人(朝食付き・男女別相部屋又は個室2名以上)
長崎温泉の宿	1泊	7,000円~/人(朝食付き・個室2名以上)
利賀村のおうち	1泊	4,000円/人(素泊まり・一般家庭での宿泊)
五箇山の宿	1泊	4,000円~/人(朝食付き・個室又は男女混合ドミトリー)

※テント、公共の宿、利賀村のおうちの場合、朝食は別途ご予約ください(グルメ館・600円)。
 ※宿への送迎バスがあります。
 ※国際キャンプ場では、オートキャンプもできます。

黒部の宿 近隣の宇奈月温泉の旅館・ホテルをご用意しています。観劇終了後は宿への送迎バスがあります(前沢会場のみ)。

食事

シアター・オリンピックス開催中、利賀会場では「グルメ館」で地元利賀村の岩魚や蕎麦をはじめ富山の味覚が味わえます。また、北京ダックやアジア料理、ロシア料理、イタリアンなど世界の料理が集います。さらに、観劇後も歓談が楽しめるBarもオープン。黒部会場の前沢ガーデンでは、特設の「おもてなし広場」で黒部の美味が味わえます。宇奈月国際会館「セレネ」のある宇奈月温泉街では、温泉グルメ・スイーツをお楽しみください。




連絡バスの時刻や宿の種類など、詳細は別刷の「トラベルガイド」またはシアター・ヴィレッジのサイトをご覧ください。

連絡バス・宿泊・朝食の予約・お問い合わせ

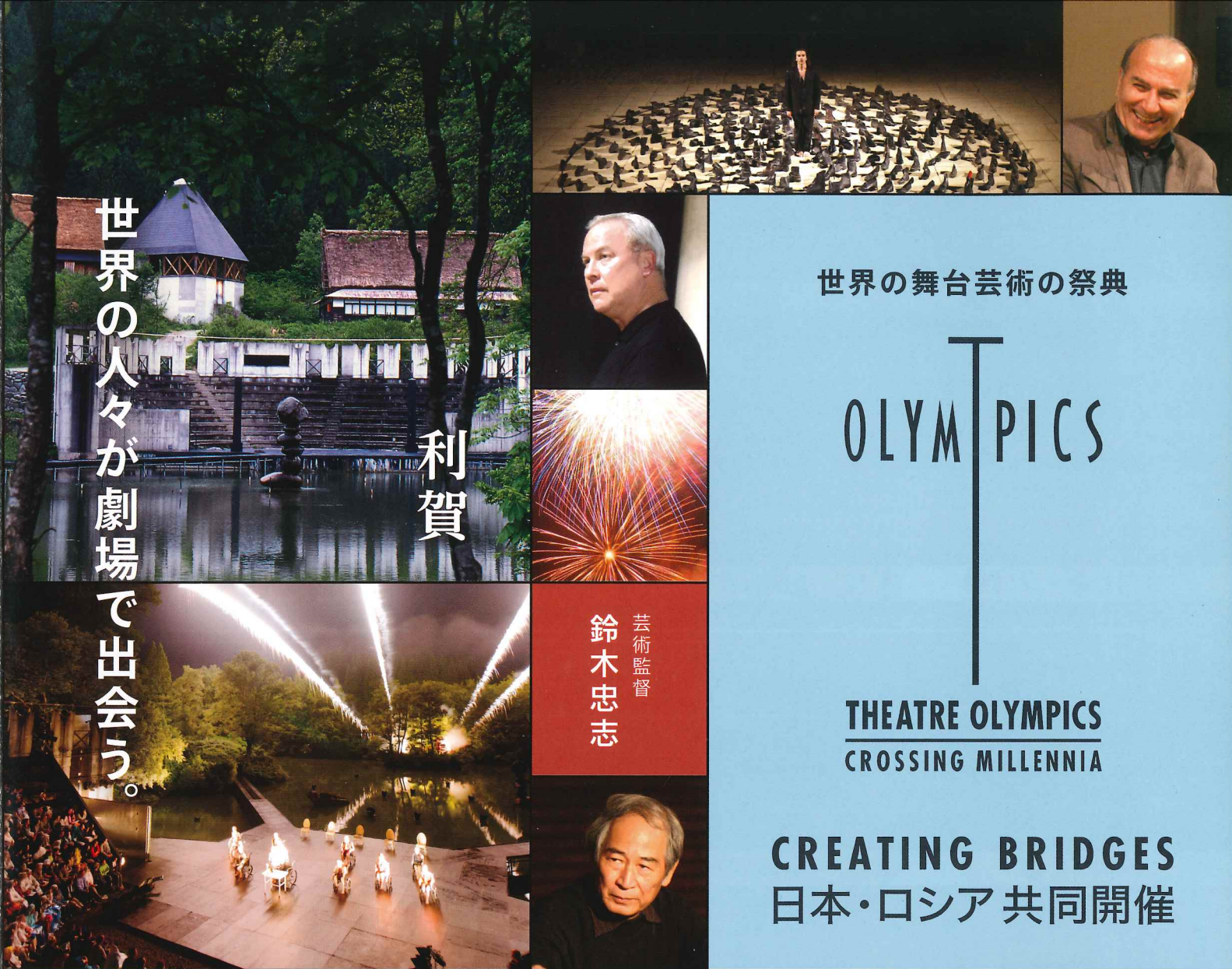
電話予約	シアター・オリンピックス 交通宿泊予約担当 Tel.0763-68-2223	受付開始 6/30(日)	受付時間 9:00~17:00	WEB予約
ウェブサイトからの予約もできます。 theater-village.com				QRコード

※ご予約にはチケット予約番号が必要です。先にチケットのご予約をお済ませください。
 6/29(土)までは、右記にお問い合わせください。 シアター・オリンピックス2019実行委員会 Tel.0763-68-2314

会場	富山県利賀芸術公園 〒939-2513 富山県南砺市利賀村上百瀬 48 Tel.0763-68-2028	宇奈月国際会館「セレネ」 〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉 6-3 Tel.0765-62-2000	前沢ガーデン野外ステージ 〒938-0806 富山県黒部市前沢 3418 Tel.0765-54-3975
-----------	--	---	---

第9回シアター・オリンピックス公式サイト www.theatre-oly.org  舞台芸術財団演劇人会議公式サイト www.jpaf.or.jp  利賀芸術公園公式サイト www.togapk.net 

舞台芸術財団演劇人会議 〒939-2513 富山県南砺市利賀村上百瀬 Tel.0763-68-2356



世界の舞台芸術の祭典

OLYMPICS

THEATRE OLYMPICS
CROSSING MILLENNIA

CREATING BRIDGES
日本・ロシア共同開催

世界の人が劇場で出会う。

利賀

鈴木忠志 芸術監督

第9回 シアター・オリンピックス

サンクトペテルブルク

黒部

8 / 23 Fri. 2019

9 / 23 Mon.

芸術監督からのメッセージ

情報伝達システムが全世界的に整備されるようになったために、世界各国の人々は自国以外の文化をも身近に感じ、知ることができるようになりました。あらゆる物事を、その現場で経験し、人間が共存して生きていく時の知恵を養ってきた時代と比較すると、その現場に立ち会うこともなく、物事を知り理解できるというこの変化は、まったく新しい環境が人間を取り囲んでいるのだというよいと思います。この世界的に共通する環境を成り立たせるために、人類は非動物性エネルギー<石油、電気、原子力>の力を利用してきました。この傾向は今後ますます拡大し、人類の未来の共存のために必要で不可欠なこととなりつつあります。

しかしながら、この便利で素早く人間を結びつける非動物性エネルギーの力に頼りすぎることは、たいへん危険な一面をもっています。それは人間の個人個人の身体の中にある動物性エネルギーの豊かな可能性を忘れさせたり、衰弱させてしまうからです。人類の文化はこの動物性エネルギーの洗練した使い方によって花を開き、果実を実らせてきました。たとえば舞台芸術、演劇やダンスやオペラなどは映画やテレビと違って、まったくこの動物性エネルギーの使い方の素晴らしさによって人類の財産になっているのです。これはスポーツも同じです。舞台芸術やスポーツはそれが行われるその場に立ち会い、人間をよりよく理解し愛する基礎を作り上げるものです。ですから、非動物性エネルギーを駆使した情報伝達のシステムがどんなに拡大し、生活を維持していくために不可欠なものになるうとも、舞台芸術やスポーツのもっている価値を忘れたり、ないがしろにすることは、人間が人間の存在理由を否定することになりかねません。むしろ、動物性エネルギーを鍛錬し、洗練して使い、それを皆で楽しむ楽しみ方は民族や地域によって違います。しかし、それぞれの民族や地域はその楽しみ方の違いによって、その文化的な個性と存在理由を主張しているといってもいいのです。非動物性エネルギーの使用量が増大し、生活の仕方が画一的になりつつある今こそ、舞台芸術のような文化的な事業を通して、民族や地域の共通性と違いを同時に知ることが、人類の未来への共存のために大きな貢献をすることになります。

舞台芸術が力強く存在することは、21世紀を生きる人間にはげましを与えることになると、われわれシアター・オリンピックス国際委員は確信しています。

芸術監督
鈴木忠志

シアター・オリンピックス

鈴木忠志、テオドロス・テルゾプロス、ロバート・ウィルソン、ユーリ・リュビーモフ、ハイナー・ミュラーら、世界各国で活躍する演出家・劇作家により、1993年にギリシアのデルフォイにおいて創設された国際的な舞台芸術の祭典。芸術家同士の共同作業によって企画されることを特徴としていて、世界の優れた舞台芸術作品の上演のほか、次世代への教育プログラムも実施される。

1995年のギリシアを皮切りに、日本、ロシア、中国など8カ国で開催されてきたが、2つの国で共同開催されるのは今回が初めてとなる。

日本・ロシア共同開催

2017年夏、鈴木忠志が「第9回シアター・オリンピックス」を利賀村で開催することを提案し、シアター・オリンピックス国際委員全員の賛同を得て日本開催が決定した。その後ロシアの国際委員であるヴァレリー・フォーキンから日露共同で開催したいという要望があり、ロシア政府支援のもとにサンクトペテルブルクでの開催が決定した。祭典史上初の2カ国共同開催である。

ロシア開催

芸術監督：ヴァレリー・フォーキン
期 間：2019年6月15日～12月15日
会 場：サンクトペテルブルク
(国立アレクサンドリンスキー劇場 他)

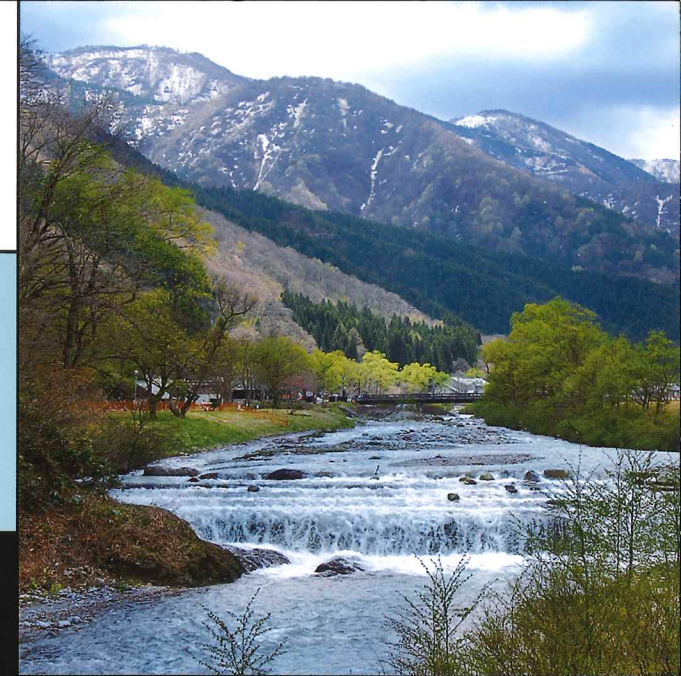
CREATING BRIDGES に寄せて

現在のグローバル化され均一化されていく世界の中で、異なる文化や異質であることを尊重し、新しい共存のルールをつくっていくために必要な、「橋を架ける」「虹を架ける」という思いから、第9回シアター・オリンピックスのテーマは「Creating Bridges」と定められた。また、人口500人弱の山間の村である日本の利賀と、人口500万人を超える文化的大都市であるサンクトペテルブルクでの共同開催の実現により、舞台芸術の多様な可能性を示し、「自然と都市に橋を架け、つなぐ」という思いも込められている。

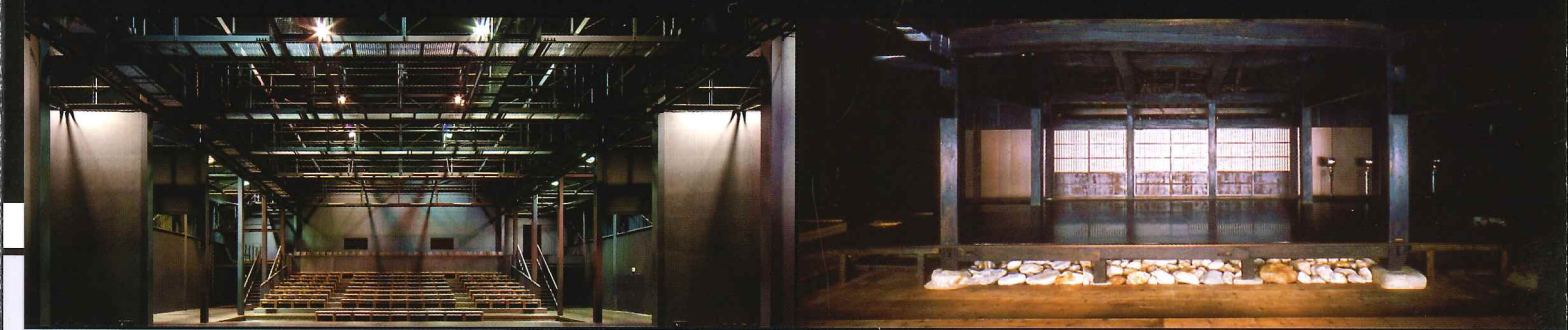
利賀

開催地

富山県 利賀芸術公園



1976年に、世界的に活躍する演出家・鈴木忠志が率いる劇団SCOT (Suzuki Company of Toga) が本拠地を東京から利賀村に移し、合掌造りの民家を劇場に改造して演劇活動を開始。1982年には野外劇場(磯崎新設計)を新設、日本で初めての世界演劇祭「利賀フェスティバル」を開催した。現在では、6つの劇場、稽古場、宿舍等を擁する世界に類をみない舞台芸術施設群となっている。雄大な自然の中、伝統文化が息づく創造環境を生かし、世界の人たちと交流し、多くの人材を輩出している国際化した「場」であり、世界の演劇人から「演劇の聖地」とも呼ばれている。



利賀山房 新利賀山房 野外劇場 利賀創造交流館 岩舞台 利賀大山房

前沢ガーデン

1982年に建てられたYKKのゲストハウス「前沢ガーデンハウス」(楨文彦設計)、円形の客席でステージを囲む緑の中の野外劇場「前沢ガーデン 野外ステージ」など、国際交流や地域社会の活性化を目的に整備されている。



宇奈月国際会館「セレネ」

セレネとは、ギリシア神話に登場する美しい月の女神の名前。宇奈月温泉の「月」と、丸みを帯びた建物の優美なイメージから名づけられた。国際会議に対応できるコンベンションホールや各種会議室、黒部峡谷の魅力を発信する美術館を兼ね備えた施設。



企画：シアター・オリンピックス国際委員会
主催：(公財) 舞台芸術財団演劇人会議、シアター・オリンピックス2019実行委員会、文化庁、富山県、SCOT
共催：ASIA 国際交流基金アジアセンター、南砺市、黒部市、(公財) 富山県文化振興財団
協賛：(公財) 松翁記念財団
委託：日本文化海外発信推進事業
2019年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業
助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
2019年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業
(一財) 地域創造

表紙写真
ロバート・ウィルソン作品写真
©Lucie Jansch
テオドロス・テルゾプロス作品写真
©Johanna Weber

黒部



第9回 シアター・オリンピック 公演演目&スケジュール PROGRAM & SCHEDULE

利賀会場 TOGA



演出: 鈴木忠志 (日本)
Suzuki Tadashi (Japan)
リア王
King Lear
原作: ウィリアム・シェイクスピア

病院の中でひとり死を待つ老人。家族は崩壊し、老人の回想と幻想の中で孤独な姿が浮かび上がる。シェイクスピアの原作を現在に再生した鈴木忠志の代表作。アメリカ、韓国、中国、ロシアの俳優がSCOTの俳優とともに創る国際版。

8/23 金・24 土・25 日

利賀大山房

演出: テオドロス・テルゾプロス (ギリシア)
Theodoros Terzopoulos (Greece)

トロイアの女
The Trojan Women
作: エウリピデス

トロイア戦争が終結し、敗北したトロイアの女王ヘカベとトロイアの民が焼け野原でギリシア軍からの沙汰を待つ。戦争の不条理な暴力による都市や人々の分断をシリア、ギリシアの他、現実に分断された都市—ニコシア、モスタル、エルサレムから参加した俳優たちが描く。

photo(C) Johanna Weber

8/24 土・25 日

野外劇場



演奏: アラッシュ・アンサンブル (ロシア)
Alash Ensemble (Russia)
ホームイ
Khoomei

ホームイはアルタイ山脈周辺の遊牧民族に伝わる伝統的な喉歌で、鳥や動物、川や風の音を模す。2つから4つの音を同時に奏でるトゥバの伝統的な歌唱に、西洋音楽やジャズなどを融合させたアラッシュ・アンサンブルによる演奏。

8/25 日・26 月

利賀山房



演出: ヴァレリー・フォーキン (ロシア)
Valery Fokin (Russia)
2016年、今日
Today. 2016-...
原作: キリル・フォーキン

キリル・フォーキンのSF小説を基にした作品。異星人が地球にやってきて、大国のリーダーたちに地球を守るために軍備撤廃を提案するが、平和への希求の訴えに賛同するものは現れない。野望が世界を動かし、変わることを恐れない人間の姿が浮き彫りになる。

8/24 土・26 月

岩舞台

演出: リュー・リービン (中国)
Liu Libin (China)
天と地の間の生
Life between Heaven and Earth
原作: 魯迅

時は辛亥革命。無実の罪で銃殺された阿Qだが、その魂は消えることなく自分の理不尽で悲惨な運命の原因を探して、天と地の間を彷徨う。中国近代文学の祖、魯迅の『阿Q正伝』の阿Qを主人公として書かれた一幕の一人芝居。

8/24 土・26 月

新利賀山房



演出: ロバート・ウィルソン (アメリカ)
Robert Wilson (USA)
“無”のレクチャー
Lecture on Nothing
原作: ジョン・ケージ

実験的音楽家、作曲家でありながら詩人、思想家であるジョン・ケージのテキスト『“無”のレクチャー』。ロバート・ウィルソンは、ケージの作品独特の複雑な時間構成を基礎としながら、レクチャーという形を取って、哲学とも詩ともいえるこのテキストを上演する。

photo (C) Lesley Leslie-Spinks

8/30 金・31 土

利賀大山房



演出: 志賀亮史 (日本)
Shiga Akifumi (Japan)
授業
The Lesson
作: ウージェーヌ・イヨネスコ

一人の女生徒が教授のもとに訪れ「授業」を受ける。数学に始まり言語学へ…教授の言葉は次第に意味を失い、「授業」は「暴力」へとたどり着く。2009年利賀演劇人コンクールで受賞。「世界はますますイヨネスコ的になっている」という志賀亮史が再び利賀で本作を上演する。

8/31 土・9/1 日

利賀山房

振付: ホ・シャオメイ (台湾)
Ho Hsiao Mei (Taiwan)

沈黙の島—新たな楽園—
New Paradise of Silent Island

寺社の縁日のような明るさと暗さ、猥雑さ。台湾のコスプレ文化と異なる文化の交配。これらが渾然一体となって金色の浮世絵を作り出す。台湾の多様性や社会状況と向き合い、現代社会に生きる人間の思考に問いかけるホ・シャオメイの作品。

9/5 木

利賀創造交流館



演出: チェ・チリム (韓国)
Choi Chy Rim (Korea)
名もなき花は風に散る
Nameless Flowers Fall by Wind
作: キム・ジョンオク

“芸人たちの人生は、冥土に向かう祝祭の道”。19世紀末、韓国に変化の風が突風の如く吹き荒れた時代に、生き残りをかけてあがく伝統芸人たちの苦闘。舞踊、伝統音楽、仮面劇など、韓国的な情緒を背景に伝統芸能を取り入れた舞台。

9/6 金・7 土

利賀山房



演出: アン・ボガート (アメリカ)
Anne Bogart (USA)
ラジオ・マクベス
Radio Macbeth
原作: ウィリアム・シェイクスピア

深夜、捨て去られた劇場の一室で『マクベス』の稽古をする俳優たち。その周りを、これまでに演じられた作品の亡霊たちが取り囲む。野望、暴力、狂気…それらが混沌として立ち現れてくる。ラジオ・プレイの形式を用いて独自の『マクベス』に迫る。

photo (C) J. Paul Getty Trust

8/31 土・9/1 日

新利賀山房



構成・演出: 鈴木忠志 (日本)
Suzuki Tadashi (Japan)
世界の果てからこんにちは
Greetings from the Edge of the Earth

宗教学の世俗性や日本主義者の民族的妄想、歌謡曲に表出されるセンチメンタルな抒情。過去に日本人が陥ってきた特異な心性のいくつかを通して日本の歴史を顧みる。世界で唯一、利賀の野外劇場でしか上演できない圧巻の火花劇。

8/31 土・9/7 土・14 土・22 日

野外劇場

演出: 中島諒人 (日本)
Nakashima Makoto (Japan)

剣を鍛える話
Forging the Swords
原作: 魯迅

残酷な王に父を殺された少年・眉間尺が、謎の黒い男と父の形見である青剣に導かれて、復讐のため王に決闘を挑む。しかし、用意された決闘のしつらは実に奇妙なものだった…。中国に古く語り継がれた様々な民話に基づく奇怪な物語。

9/5 木・6 金

岩舞台



演出: ヤロスロウ・フレット (ポーランド)
Jaroslaw Fret (Poland)
アンヘリー呻き—
Anhelli. The Howl
原作: コリウシュ・スウォヴァツキ

「神不在の美しい教会」と評されるポーランドのロマン派の詩人コリウシュ・スウォヴァツキの詩。1838年に書かれた『アンヘリー』の世界を、俳優の身体と、東欧で歌われていた古い聖歌や典礼音楽の生演奏によって生み出す。

photo (C) Magdalena Madra

9/7 土・8 日

新利賀山房

8 August

23 Fri.

24 Sat.

25 Sun.

26 Mon.

28 Wed.

29 Thu.

30 Fri.

31 Sat.

9 September

1 Sun.

5 Thu.

6 Fri.

7 Sat.

8 Sun.

9 Mon.

12 Thu.

13 Fri.

利賀山房 TOGA SANBO		ホームイ 14:00	ホームイ 14:00				授業 14:30	授業 14:00		名もなき花は 風に散る 18:00	名もなき花は 風に散る 13:30	トーク 10:30	シンポジウム 10:30						
新利賀山房 NEW TOGA SANBO		天と地の間の生 13:00	天と地の間の生 16:00				ラジオ・マクベス 14:00	ラジオ・マクベス 16:00			アンヘリー呻き— 14:00	アンヘリー呻き— 19:30							
利賀大山房 TOGA DAI-SANBO	リア王 19:00	リア王 16:00	リア王 16:00			"無"のレクチャー 17:00	"無"のレクチャー 17:00				マクベス (ラタン・ティヤム) 16:00	マクベス (ラタン・ティヤム) 14:00							
創造交流館 BLACKBOX THEATRE		トーク 10:30	シンポジウム 10:30				トーク 10:30	シンポジウム 10:30	沈黙の島— 新たな楽園— 13:00/18:00			十二人 15:00	十二人 14:00						トリノソク 18:00
岩舞台 ROCK THEATRE		2016年、今日 21:30	2016年、今日 20:00			ゴドーを待ちながら 20:00		ゴドーを待ちながら 20:00	剣を鍛える話 20:00	剣を鍛える話 20:00									アマリロ 20:00
野外劇場 OPEN AIR THEATRE		トロイアの女 19:30	トロイアの女 19:30						世界の果てから こんにちは 20:00			世界の果てから こんにちは 20:00							世界...
前沢ガーデン MAEZAWA GARDEN					天守物語 19:30	天守物語 19:30													ディオニュソス 19:30
セレネ SELENE	羯諦羯諦 13:30										青い鳥 14:00	青い鳥 14:00							

演出：ラタン・ティヤム (インド)
Ratan Thiyam (India)

マクベス
Macbeth
原作：ウィリアム・シェイクスピア

王位を奪うために王を暗殺するマクベス。一度は王となるものの、罪の意識にさいなまれ破滅へ向かって進んでいく。ラタン・ティヤムは『マクベス』に現代社会に広がる伝染病—無限の欲望、欲求、暴力といった病—を重ね合わせて描く。



演出：アントン・オコネシュニコフ (ロシア)
Anton Okoneshnikov (Russia)

十二人
The Twelve
原作：アレクサンドル・ブローク

ロシアの詩人アレクサンドル・ブロークの長編詩で、革命期のペトログラードをめぐる十二人の赤軍兵士を描いた『十二人』を題材とした作品。劇場に入った観客は繰り広げられる事件の渦中に立ち会い、ペトログラードの街に誘われていく。



演出：パコ・デ・ラ・ザランダ (スペイン)
Paco de la Zaranda (Spain)

すべては夜のなか
All is Night Now
作：エウセビオ・カロンヘ

3人の男たちが遊んでいる。飢えや寒さと隣り合わせの彼らの遊びはやがてごっこ遊び—王様の戴冠式に至る。彼らは王国を持たない王様である。ホームレスの男たちがコミカルに遊び続ける光景が、現代社会の影を浮き上がらせる。



演出：オスカラス・コルスノヴァ (リトアニア)
Oskaras Korsunovas (Lithuania)

浄化
Cleansed
作：サラ・ケイン

“愛に生きるのは、アウシュビッツで生きようなもの” (ロラン・バルト) — 大学のような施設に兄を訪ねてきた女と収容されている男たち。彼らに拷問のような治療を施す医者…。イギリスの早世の劇作家、サラ・ケインの戯曲を、グロテスクでありながら詩的に、鮮烈に描く。



9/7 土・8 日 利賀大山房

9/8 日・9 月 利賀創造交流館

9/20 金・21 土 新利賀山房

9/20 金・21 土 利賀創造交流館

振付：ノエ・スーリエ (フランス)
Noé Soulier (France)

トリノゾク
Removing

日常の動作を、日常と違う仕方で行ってみる。「打つ」は手でなく喉やあばらで、「投げる」は自分の身体の一部を投げるものに見立てる。それらの動きは完結せず次の動作に中断される…。動作本来の形や意味を脱臼させるような手法で創られたノエ・スーリエの代表作。



構成・演出：ホルヘ・A・ヴァルガス (メキシコ)
Jorge A. Vargas (Mexico)

アマリロ
Amarillo

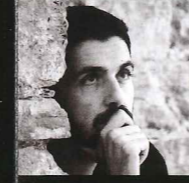
ある男がアメリカとメキシコの境界線へ向かうが、最終目的地テキサス州アマリロへ到着する前に姿を消す…。大量の移民が生まれている現代社会での個人と国家のアイデンティティの複雑さを、映像、ガラクタ、自然物のオブジェなど様々なモノを駆使して表現する。



演出：アレサンドロ・セラ (イタリア)
Alessandro Serra (Italy)

マクベス
Macbeth
原作：ウィリアム・シェイクスピア

地中海に浮かぶ島、サルティエーニャのカーニバル—カウベルが奏でる暗い音、動物の皮や角、陰気な面持ちの仮面、妖しげな踊りや歌…これらの面影と、シェイクスピアの豊かな言葉の世界とが重なり合って、セラの『マクベス』が生まれた。男優のみで演じられる作品。



演出：鈴木忠志 (日本)
Suzuki Tadashi (Japan)

ディオニュソス
Dionysus
原作：エウリピデス

宗教と政治権力の衝突の渦中で犠牲になる個人を描く。世界20カ国を駆け巡った鈴木忠志の代表作が、インドネシア、中国、日本の俳優によって上演される。インドネシアの俳優はそれぞれの出身地域の母語を話す多言語上演。



9/13 金・15 日 利賀創造交流館

9/13 金・15 日 岩舞台

9/21 土・22 日 利賀大山房

9/12 木 黒部・前沢ガーデン 9/21 土 利賀・野外劇場

作・演出：平田オリザ (日本)
Hirata Oriza (Japan)

東京ノート(インターナショナルバージョン)
Tokyo Notes International ver.

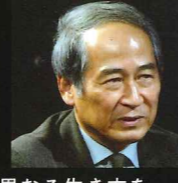
ヨーロッパで起こった戦争から避難してきた絵画を展示した美術館。そのロビーで、夫婦や恋人たちが、両親の世話や相続、進路、恋愛の問題についての会話を繰り返す。現代社会の様々な危機を、戦争という背景と卑近な日常とのコントラストで描き出す。



演出：鈴木忠志 (日本)
Suzuki Tadashi (Japan)

サド侯爵夫人 (第二幕)
Madame de Sade(Act II)
作：三島由紀夫

異端の貴族サド侯爵をめぐる激しく争う女たち。価値観の異なる生き方をめぐっての衝突を描いた三島由紀夫の代表作。傑出した昭和の日本人は、何を考え、何をメッセージとして残したのか。SCOTの女優たちの気迫が充満する舞台。



黒部会場 KUROBE

音楽：高田みどり (日本) Takada Midori (Japan)

出演：SAMGHA/真言聲明の会 (日本) The SAMGHA (Japan)

羯諦羯諦
Gya-tei Gya-tei

仏典に節をつけて唄われるインドに源流を持つ声明。二千年に及ぶ時間を生き続け、人々の身体に記憶されている原音が、現代の打楽器と呼応し、人々を新しい空間に誘う。2006年静岡芸術劇場で初演、2007年にロシアのチェーフ国際演劇祭で上演され、絶賛を博した作品。



演出：宮城聡 (日本)
Miyagi Satoshi (Japan)

天守物語
Tenshu-Monogatari [The Castle Tower]
作：泉鏡花

異界の者同士の間だけに許される純粋な恋。幻想世界の中に人間のもっとも美しいありようを浮かび上がらせる、泉鏡花の最高傑作。アジアの多様な演劇の伝統を現代の新しい創作につなぐ仕事を行ってきた宮城聡の趣向が随所にちりばめられた作品。



9/14 土・16 月 利賀山房

9/14 土・15 日・16 月 新利賀山房

演出：ワン・シャオイン (中国)
Wang Xiaoying (China)

蘭陵王
The Prince of Lanling
作：ルオ・ホァゼン

父王が殺される場を目撃し、弱いふりをして本当の自分を隠して生きる蘭陵王が、伝説上の生き物を模した仮面をかぶることで残虐な暴君となっていく…。ワン・シャオインは中国の古い伝説に「真の自己と仮面」というテーマを読み込み、新しい『蘭陵王』を創り上げた。



演出・振付：金森穰 (日本) Kanamori Jo (Japan)

音楽：原田敬子 (日本) Harada Keiko (Japan)

still/speed/silence

利賀山房を想起した金森の身体の裡に浮かんだ言葉—“still/speed/silence”。闇を擁する合掌造りの劇場・利賀山房で「身体の深淵と観客の深淵の繋がりを知覚可能にする舞踊」を探求する。新たな領域に挑戦し続ける作曲家と創る、シアター・オリンピックのための新作。



演出：マティア・セバステアン (イタリア)
Mattia Sebastian (Italy)

青い鳥
The Blue Bird
作：モーリス・メーテルリンク

チルチルとミチルの小さな兄妹の夢物語の形をとって“幸福のありか”や“死”、“この世の神秘”を描く『青い鳥』。マティア・セバステアンの演出では6カ国の俳優がそれぞれの母語で一人何役も演じ、幻想的な空間を創りだしている。



構成：レスツ・I・クスマニングルム (インドネシア)
Restu I. Kusumaningrum (Indonesia)

いのちの旅
The Journey of Life

インドネシアの伝統的な舞踊と現代舞踊、影絵芝居や様々な音色を醸し出すヴォーカル、パーカッションの響きが連続的なタフローを描いていく。人生の旅路と、それに交差する大地、山々、炎…。インドネシアの俳優と音楽家たちが紡ぎ出す、生命と魂の物語。



9/14 土・15 日 利賀大山房

9/20 金・22 日 利賀山房

14 Sat.	15 Sun.	16 Mon.	17 Tue.	18 Wed.	20 Fri.	21 Sat.	22 Sun.	23 Mon.
東京ノート 13:30	トーク 10:30	東京ノート 14:00			still/speed/silence 16:00	still/speed/silence 14:00		
サド侯爵夫人 14:00	サド侯爵夫人 17:00	サド侯爵夫人 17:00			すべては夜のなか 21:00	すべては夜のなか 13:30		トーク 10:30
蘭陵王 16:00	蘭陵王 14:00					マクベス (アレサンドロ・セラ) 16:00	マクベス (アレサンドロ・セラ) 16:00	
	トリノゾク 17:30	シンポジウム 10:30			浄化 18:00	浄化 13:00	シンポジウム 10:30	
	アマリロ 20:00							
世界の果てから こんにちは 20:00						ディオニュソス 19:30	世界の果てから こんにちは 19:30	
		いのちの旅 19:30	いのちの旅 19:30	いのちの旅 19:30				
					ワークショップ 19:00	ワークショップ 10:00		

9/6 金・8 日 宇奈月国際会館「セレネ」 9/16 月・17 火・18 水 前沢ガーデン

※()内の国名は、演出家の国籍です。劇団の国籍名ではありません。

鈴木忠志トーク

毎夏恒例、鈴木忠志が観客の皆さんのどんな質問にも答えます。

会場	利賀創造交流館
日程	8月25日(日) 10:30 8月31日(土) 10:30

シンポジウム

今回上演される舞台作品について、様々な視点から迫る特別プログラム。
講師：菅孝行、内野儀他 司会：山村武善

会場	利賀創造交流館
日程	8月26日(月) 10:30 9月1日(日) 10:30 9月16日(月) 10:30 9月22日(日) 10:30

ワークショップ

平田オリザによる演劇経験者を対象にした2日間のワークショップ。見学も可能です。

会場	宇奈月国際会館「セレネ」
日程	9月20日(金) 19:00-21:00 9月21日(土) 10:00-16:00

※申し込み方法は公式サイトをご覧ください。

プログラムはウェブサイトからもご確認いただけます 第9回シアター・オリンピック公式サイト www.theatre-oly.org

